

JICA 現場見学会 (中南米部円借款迅速化促進研修) の開催状況

見学会概要

日時：平成 28 年 9 月 2 日 (金) 10:00~12:00

場所：三陸沿岸道路「唐桑高田道路」(仮称) 県境トンネル坑内、(仮称) 青野沢川橋

参加者：JICA 研修員 6 名(ペルーなど 4 カ国)、JICA 職員 2 名、通訳 1 名

●三陸沿岸道路「唐桑高田道路」は、復興のリーディングプロジェクトとして、一日も早い開通を目指し事業を進めており、震災からの復興及び迅速な救急搬送で安全・安心な住民生活に貢献するものと期待されています。

●この度、上記各国の JICA 研修員の皆さまを対象とした(仮称) 県境トンネルと(仮称) 青野沢川橋の現場見学会を開催しました。

●橋梁下部工やトンネルの施工状況を見学することにより、日本の道路事業における技術・知識等を学んでもらうことを目的としています。

●現場詰所にて三陸沿岸道路の概要や整備効果等の説明を受けて頂いた後、(仮称) 県境トンネルではロックボルトの削孔状況を、(仮称) 青野沢川橋では下部工の施工状況を見学していただきました。

見学の内容

- ①三陸沿岸道路の概要・整備効果、工事概要の説明(現場詰所)
- ②(仮称) 県境トンネルの見学(削孔状況の確認)
- ③(仮称) 青野沢川橋の見学(下部工の施工状況の確認(P13 橋脚))
- ④記念撮影(トンネル坑内)

見学の様子



▲三陸沿岸道路・工事概要等の説明



▲削孔状況の確認(トンネル坑内)



▲記念撮影(トンネル坑内)



▲青野沢川橋の見学(P3 橋脚の足場内)

参加者からのご感想とご質問・回答

「大きな事業(インフラ整備)を見学できて良かった。」

「今後役に立つ内容もあり、大変良かった。」

「工事の施工に関わっている人数は?(ブラジルではこの規模であれば 1,000 人くらい)」

→(仮称) 県境トンネルは約 80 人程度が携わっています。

「トンネルの鋼製支保工が有る場所と無い場所の違いは?」

→掘進長や周方向のロックボルトの施工間隔の違いもありますが、素掘面(切羽)の安定性の要因が大きく、肌落ちや抜け落ちなどの岩質が悪い場合(崩落性の緩みの発達等)に施工しています。

鋼アーチ支保工+ロックボルトにより、地山改良効果を発揮させ安定させています。

逆に支保工が無い箇所は岩質が良質であり、安定しているため不要となります。

「青野沢川橋の下部工は、耐震上の配慮はされているのか?」

→耐震設計は、橋の重要度とレベル(レベル 1 及びレベル 2 地震動)を考慮して設計しています。

など、たくさんのご感想・ご質問が寄せられました。